

## 1・6 調査研究に対する外部評価

当所で実施する調査研究について、県民ニーズに合致した効率的・効果的な業務の遂行とその透明性の確保を図るため、研究計画や成果に関する外部評価委員会による評価を行った。

- 1 開催日  
平成30年11月21日
- 2 委員  
学識経験者等3名
- 3 評価対象  
成果評価（調査研究の目的の達成度、行政施策への寄与度等）を評価）・・・3件  
中間評価（調査研究の進捗状況、継続の妥当性等）を評価）・・・なし  
計画評価（計画段階で調査研究の目的、内容の妥当性等）を評価）・・・なし
- 4 評価方法  
項目別評価、総合評価とも次の5段階で評価する。  
5：非常に高く評価できる。  
4：高く評価できる。  
3：評価できる。  
2：あまり評価できない。  
1：評価できない。
- 5 評価結果

### 【1】成果評価

(1) 調査研究課題	
重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）の生態学的研究（H26～29）	
(2) 項目別評価	
①研究目的の達成度	5
②衛生行政・環境行政施策への寄与度	5
③学術的意義又は技術開発への寄与度	5
④県民ニーズへの波及効果	5
⑤今後の発展性	4
(3) 総合評価	5
(4) 委員のコメント	
○非常に重要なテーマであるなか、SFTSVの分布状況について詳細に調査され、またマダニから国内で初めてウイルスを分離されており、学術的な意義は大きい。	
○致死率が高いこともあるが、研究成果を活用して医師会等に啓発されたことで、SFTSに罹患したのではないかと医療機関も疑ってかかるようになってきたと感じている。県内で発生状況に差が出ていることは、マダニの生息域と人との接点という観点からも興味深い研究である。	

(1) 調査研究課題	
有毒キノコに由来する毒成分の一斉分析法の開発（H26～29）	
(2) 項目別評価	
①研究目的の達成度	5
②衛生行政・環境行政施策への寄与度	4
③学術的意義又は技術開発への寄与度	5
④県民ニーズへの波及効果	5
⑤今後の発展性	4
(3) 総合評価	5
(4) 委員のコメント	
<p>○多成分を迅速に高感度で抽出できており、研究目的を十分に達成している。</p> <p>○毒物の成分が検出されるかどうかで、治療の考え方が変わることもあるので、今後検証が必要だとは思いますが、確立されていけば有用な研究である。</p> <p>○溶離液を4種類使用され、複雑なシーケンスを活用されて開発されたものであり、素晴らしい研究である。</p> <p>○各化合物の回収率をもとめて確認されたと同時に、発表資料にはなかったが、以前発生した事件の際の実試料を分析され実際に当該物質が検出されたことは評価に値する。</p>	

(1) 調査研究課題	
植物性自然毒の一斉分析法の開発（H28～29）	
(2) 項目別評価	
①研究目的の達成度	5
②衛生行政・環境行政施策への寄与度	5
③学術的意義又は技術開発への寄与度	4
④県民ニーズへの波及効果	4
⑤今後の発展性	5
(3) 総合評価	5
(4) 委員のコメント	
<p>○野草を食べた食中毒が近年増えており、多くの種類の自然毒が一斉に検出できるのは有意義だ。</p> <p>○食事の際にはいろいろなものを食べられており、食品から原因を推定していくのは難しい所もあるので、迅速に毒物が見つかる医療の面からも有用である。</p> <p>○いろいろ多成分、高精度な迅速な検査法を開発されているので、熊本発の検査法として広く使われるようにしてほしい。</p>	